

ぼたんのふすまえ
99. 牡丹の襖絵

■ 指定日

昭和57年10月9日

■ 種別

有形文化財 絵画

■ 年代

大正時代

■ 所在地

朝来市八代

■ 所有者

無量寺



■ 内容

大正4年(1915)から大正10年(1921)ごろに無量寺に投宿した画人中島梅岳が、襖絵や屏風などの絵を多数描いた。無量寺には梅岳の署名落款がある屏風1点と襖絵12枚が現存するが、指定文化財はそのうちの牡丹を題材にした襖絵5枚。

梅岳は弘化3年(1846)城崎郡日高町東河内村に生まれ、後に梅岳、又は楳岳とも号した。幼少のころから絵画を好み、慶応元年(1865)より小西蘆汀に従って円山派の画風を学び、また市川千山について学んだ。後に文人墨客との交遊を温め、南画への傾斜を深めた。

梅岳がとくに得意としたのは牡丹で、蝶や蟹などもこれを得意とした。襖絵のなかには、牡丹と共に蝶が飛び交う様が描かれたものもみられる。